

メッセージ件数とメールボックス サイズを調べる CUC SQL クエリ

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[データベース](#)

[テーブル](#)

[SQL クエリ](#)

[既知 エイリアスの総メッセージ数をリストして下さい](#)

[総メッセージ数のユーザをリストして下さい](#)

[総メッセージを持つユーザを数えますエイリアスの最初文字に基づいてリストして下さい](#)

[総インボックス メッセージを持つユーザをリストして下さい](#)

[総削除済みメッセージを持つユーザをリストして下さい](#)

[合計、インボックスおよび削除済みメッセージを持つユーザをリストして下さい](#)

[以前のメッセージ平均利用間隔のユーザー定義メッセージ数をリストして下さい](#)

[以前のメッセージ平均利用間隔およびメールボックス サイズ/合計 期間のユーザー定義メッセージ数をリストして下さい](#)

[ユーザ インボックスをリストすれば削除済みメッセージは以前のメッセージ平均利用間隔およびメールボックス サイズ/合計 期間と数えます](#)

[すべてのメールボックスのためのメッセージの総数をリストして下さい](#)

[送信のユーザ メールボックス サイズをリストし、制限を受け取って下さい](#)

[送信のすべてのユーザ メールボックス サイズをリストし、制限を受け取って下さい](#)

[結合されるすべてのメールボックスの合計サイズをリストして下さい](#)

概要

この資料に CLI によって構造化照会言語 (SQL) クエリを用いるユーザ メールボックスのメッセージカウントおよびサイズを得る方法を記述されています。このデータはまた [Tools ページ Cisco Unified Communications](#) から [ユーザのデータ ダンプする](#) ツールと、取得することができます。

前提条件

要件

Cisco は Cisco Unity Connection (CUC) のナレッジがあることを推奨します。

使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は CUC バージョン 8.X および それ 以降に基づいています、この情報は以前のバージョンのためにまたはたらくかもしれません。

データベース

SQL クエリはこれらのデータベースからのデータと形成されます:

- **UnityDirDB** -このデータベースはユーザに関する情報が含まれています。
- **UnityMbxDB1** -このデータベースはユーザ メールボックス 情報が含まれています。

テーブル

SQL クエリはこれらの意見のデータと形成されます。 ビューは 2つ以上の表の組み合わせの、または一つのテーブルの同じデータです表。

これらの意見は UnityDirDB データベースで使用されます:

- **vw_mailbox** -このビューはユーザとメールボックス間のマッピングが含まれています。
- **vw_user** -このビューはユーザに関する情報が含まれています。

これらの意見は UnityMbxDB1 データベースで使用されます:

- **vw_message** -このビューはシステムでメッセージ 項目が含まれています。 この表はただメッセージ プロパティのホルダーです。
- **vw_mailbox** -このビューはそのシステムのメールボックスが保持受信メッセージ含まれています。 この表はメッセージがメールボックスで保存される方法を含むために個々のメールボックスについての概要が、含まれています。

SQL クエリ

このセクションは CUC で使用できるさまざまな SQL クエリを記述します。

総メッセージを数えます既知 エイリアスとリストして下さい

合計 メッセージのリストを得るためにこのコマンドを数えます既知 エイリアスと入力して下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select count (*) as Messages from vw_message,
unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where mailboxobjectid in (select
```

```
mailboxid from vw_mailbox where unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid and alias='Anirudh')
```

```
messages
```

```
-----
```

```
3
```

このクエリは高複雑度、複数のテーブルを含む二重データベースクエリです。非常に大きいデータベースおよびメールボックスサイズのサーバに関しては、長時間は出力が現われる前に、理想的ではない1時間経過するかもしれません。そのようなシナリオでは、このクエリを代りに使用できます:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select count (*) as Messages from vw_message where mailboxobjectid in (select mailboxobjectid from vw_mailbox where description='Anirudh')
```

```
messages
```

```
-----
```

```
3
```

ユニークである最初のクエリはエイリアスが述べられるときデータを返します。第2クエリはユニークではない説明が述べられるときデータを返します。

注: メールボックスが作成される時、説明はエイリアスと同じです; ただし、エイリアスが更新済のとき、説明は更新済ではありません。小さいデータベースに関しては、最初のクエリは理想的です。エイリアスが変わった後説明が変更されないことを示すために、test3は Atest3 に修正され、次のセクションのために使用されます。

総メッセージ数のリスト ユーザ

総メッセージ数のユーザのリストを得るためにこのコマンドを入力して下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as messages from vw_message, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox where unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) group by alias order by messages desc
```

```
userid messages
```

```
-----
```

```
Anirudh 3
```

```
Atest3 2
```

```
undeliverablemessagesmailbox 1
```

[リストで合計メッセージ](#)述べられる同じ原因で[既知別名節](#)と、このクエリまた使用することができます[数えて下さい](#):

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as Messages from vw_message, vw_mailbox where vw_mailbox.mailboxobjectid = vw_message.mailboxobjectid group by description order by messages desc
```

```
description messages
```

```
-----
```

```
Anirudh 3
```

```
test3 2
```

```
undeliverablemessagesmailbox 1
```

注: 第2クエリでは、説明は test3 から Atest3 にエイリアスが変更された後変更しません。

総メッセージを持つリスト ユーザはエイリアスの最初文字に基づいて数えます

総メッセージを持つユーザのリストを得るためにこのコマンドを数えますエイリアスの最初の文字に基づいて入力して下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as messages from
vw_message, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where deleted='0' and
mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox where unitydirdb:
vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) and alias like 'A%' group by
alias order by messages
```

```
userid messages
```

```
-----
```

```
Atest3 2
```

```
Anirudh 3
```

[リストで合計メッセージ](#)述べられる同じ原因で[既知別名節](#)と、このクエリまた使用することができます[数えて下さい](#):

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as Messages from
vw_message, vw_mailbox where vw_mailbox.mailboxobjectid =
vw_message.mailboxobjectid and description like 'A%' group by description order
by messages
```

このクエリについてのいくつかの注記はここにあります:

- **A%** は文字 A.から始まるエイリアスを見つけるためにクエリをセット。
- 形式はところに「条件」のような columnname です。ここでは、カラム名は第 2 クエリの最初のクエリおよび説明のためのエイリアスです。

状態例はここにあります:

- **_n%** -最初の文字は文字 n および文字のいくつかのものすぐ前にどの文字 (ワイルドカード) である場合もあります。
- **%s** -これは文字 s.で終わっているエイリアスを見つけるためにクエリを設定します。

これまでに述べられるクエリは総メッセージを得るために使用されます (インボックスおよび削除された項目)。次のセクションはインボックスおよび削除された項目のメッセージの総数を得るために使用するクエリを記述します。

総インボックス メッセージを持つリスト ユーザ

総インボックス メッセージを持つユーザのリストを得るためにこのコマンドを入力して下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as
inboxmessages from vw_message, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user
where deleted='0' and mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox
where unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) and
alias like 'A%' group by alias order by inboxmessages
```

```
userid inboxmessages
```

```
-----
```

```
Atest3 2
```

```
Anirudh 3
```

[リストで合計メッセージ](#)述べられる同じ原因で[既知別名節](#)と、このクエリまた使用することができます[数えて下さい](#):

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as InboxMessages
from vw_message, vw_mailbox where vw_mailbox.mailboxobjectid =
vw_message.mailboxobjectid and deleted = '0' and description like 'A%' group by
description order by InboxMessages
```

このクエリについてのいくつかの注記はここにあります:

- **A%** は文字 A.から始まるエイリアスを見つけるためにクエリをセット。
- 形式はところに「条件」のような columnname です。ここでは、カラム名は第 2 クエリの最初のクエリおよび説明のためのエイリアスです。

状態例はここにあります:

- **_n%** -最初の文字は文字 n および文字のいくつかのすぐ前にどの文字 (ワイルドカード) である場合もあります。
- **%s** -これは文字 s.で終わっているエイリアスを見つけるためにクエリを設定します。

注: この例ではエイリアス/説明のユーザを制限するために、文字 A.から始まる条件は使用されます。

これらはこのクエリのいくつかのバリエーションです:

- すべてのユーザをリストするために、第 2 クエリの「A%」のような最初のクエリ、またはおよび説明の「A%」のようなエイリアス取除けば。
- 特定のユーザ (Anirudh のメールボックスのための数を、たとえばリストして下さい) リストしか、「A%」とおよび「A%」のおよび説明のような最初のクエリ取り替えか、または取り替えるためおよび説明の alias='Anirudh」のようなエイリアスを = '第 2 クエリの Anirudh」。置換が正確な位置にある、またはクエリは失敗しますようにして下さい。

総削除済みメッセージを持つリスト ユーザ

総削除済みメッセージを持つユーザのリストを得るためにこのコマンドを入力して下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as
deletedmessages from vw_message, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user
where deleted='1' and mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox
where unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) and
alias like 'A%' group by alias order by deletedmessages
```

No records found

[リストで合計メッセージ](#)述べられる同じ原因で[既知別名節と](#)、このクエリまた使用することができます[数えて下さい](#):

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as
deletedmessages from vw_message, vw_mailbox where vw_mailbox.mailboxobjectid=
vw_message.mailboxobjectid and deleted = '1' and description like 'A%' group
by description order by deletedmessages
```

注: この例では削除済みメッセージがありません、従ってレコードが見つけなかったので出力は現われません。

このクエリについてのいくつかの注記はここにあります:

- **A%** は文字 A.から始まるエイリアスを見つけるためにクエリをセット。
- 形式はところに「条件」のような columnname です。ここでは、カラム名は第 2 クエリの最初のクエリおよび説明のためのエイリアスです。

状態例はここにあります:

- **_n%** -最初の文字は文字 n および文字のいくつものすぐ前にどの文字 (ワイルドカード) である場合もあります。
- **%s** -これは文字 s.で終わっているエイリアスを見つけるためにクエリを設定します。

注: この例ではエイリアス/説明のユーザを制限するために、文字 A.から始まる条件は使用されます。

これらはこのクエリのいくつかのバリエーションです:

- すべてのユーザをリストするために、第 2 クエリの「A%」のような最初のクエリ、またはおよび説明の「A%」のようなエイリアス取除けば。
- 特定のユーザ (Anirudh のメールボックスのための数を、たとえばリストして下さい) リストしか、「A%」とおよび「A%」とのおよび説明のような最初のクエリ取り替えか、または取り替えるためおよび説明の alias='Anirudh」のようなエイリアスを = '第 2 クエリの Anirudh」。置換が正確な位置にある、またはクエリは失敗しますようにして下さい。

合計、インボックスおよび削除済みメッセージを持つリスト ユーザ

合計、インボックスおよび削除済みメッセージを持つユーザのリストを得るためにこのコマンドを入力して下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as messages,
sum(case when deleted='0' then 1 else 0 end) as Inboxmessages, sum(case when
deleted='1' then 1 else 0 end) as Deletedmessages from vw_message, unitydirdb:
vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where mailboxobjectid in (select mailboxid from
vw_mailbox where unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid)
group by alias order by messages desc
```

```
userid messages inboxmessages deletedmessages
```

```
-----
```

```
Anirudh 3 3 0
```

```
Atest3 2 2 0
```

```
undeliverablemessagesmailbox 1 1 0
```

[リストで合計メッセージ](#)述べられる同じ原因で[既知別名節](#)と、このクエリまた使用することができます[数えて下さい](#):

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description as UserID, count (*) as
messages, sum(case when deleted='0' then 1 else 0 end) as Inboxmessages, sum
(case when deleted='1' then 1 else 0 end) as Deletedmessages from vw_mailbox
join vw_message on vw_message.mailboxobjectid=vw_mailbox.mailboxobjectid
group by description order by messages desc
```

このクエリについてのいくつかの注記はここにあります:

- **A%** は文字 A.から始まるエイリアスを見つけるためにクエリをセット。

- 形式はところに「条件」のような columnname です。ここでは、カラム名は第 2 クエリの最初のクエリおよび説明のためのエイリアスです。

状態例はここにあります:

- `_n%` -最初の文字は文字 n および文字のいくつものすぐ前にどの文字 (ワイルドカード) である場合もあります。
- `%s` -これは文字 s. で終わっているエイリアスを見つけるためにクエリを設定します。

注: この例ではエイリアス/説明のユーザを制限するために、文字 A. から始まる条件は使用されます。

これらはこのクエリのいくつかのバリエーションです:

- すべてのユーザをリストするために、第 2 クエリの「A%」のような最初のクエリ、またはおよび説明の「A%」のようなエイリアス取除けば。
- 特定のユーザ (Anirudh のメールボックスのための数を、たとえばリストして下さい) リストしか、「A%」とおよび「A%」とのおよび説明のような最初のクエリ取り替えか、または取り替えるためおよび説明の alias='Anirudh」のようなエイリアスを = '第 2 クエリの Anirudh」。置換が正確な位置にある、またはクエリは失敗しますようにして下さい。

以前のメッセージ平均利用間隔のリスト ユーザー定義メッセージ数

このクエリは mailboxe クリーンアップのためのスケジュール済みジョブが実施されるかどうか判別するために使用することができます:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as messages,
min(arrivaltime) as OldestMessageTime from vw_message, unitydirdb:vw_mailbox,
unitydirdb:vw_user where mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox
where unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) group
by alias order by messages desc
```

```
userid messages oldestmessagetime
```

```
-----
Anirudh 3 2013-03-19 14:38:14.459
Atest3 2 2013-01-18 05:49:45.355
undeliverablemessagesmailbox 1 2012-07-05 01:10:19.961
```

[リストで総メッセージ](#)述べられる同じ原因で[既知別名節](#)と、このクエリまた使用することができます [数えて下さい](#):

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as Messages,
min(arrivaltime) as OldestMessageTime from vw_message, vw_mailbox where
vw_mailbox.mailboxobjectid = vw_message.mailboxobjectid group by description
order by messages desc
```

注: 前のセクションのクエリのための最後の平均利用間隔を得るために、メッセージとして数の直後の OldestMessageTime として min (arrivaltime) を (*) 追加して下さい。

これらはこのクエリのいくつかのバリエーションです:

- 文字 A から始まるエイリアスのすべてのユーザをリストするために、エイリアス状態によって最初のクエリの「A%」のようなエイリアス直前にグループ、または説明状態によっておよ

びグループの直前の第 2 クエリの「A%」のような説明追加すれば。置換が正確な位置にある、またはクエリは失敗しますようにして下さい。

- 特定のユーザをリストするために (Anirudh のメールボックスのための数を、たとえばリストして下さい)、エイリアス状態、またはおよび説明によって最初のクエリの alias='Anirudh 直前にグループ = '説明状態によるグループの直前の第 2 クエリの Anirudh 追加すれば。置換が正確な位置にある、またはクエリは失敗しますようにして下さい。

以前のメッセージ平均利用間隔およびメールボックス サイズ/合計 期間のリスト ユーザー定義メッセージ数

以前のメッセージの平均利用間隔およびメールボックス サイズのユーザー定義メッセージ数のリストを得るためにこのコマンドを入力して下さい (総期間なしで):

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as messages,
min(arrivaltime) as OldestMessageTime, vw_mailbox.bytesize from vw_message,
vw_mailbox, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where
vw_message.mailboxobjectid=vw_mailbox.mailboxobjectid and
vw_mailbox.mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox where
unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) group by
alias, vw_mailbox.bytesize order by messages desc
```

```
userid messages oldestmessagetime bytesize
```

```
-----
Anirudh 3 2013-03-19 14:38:14.459 93319
Atest3 2 2013-01-18 05:49:45.355 59890
undeliverablemessagesmailbox 1 2012-07-05 01:10:19.961 317003
```

注: メッセージの総期間を得るため: 「vw_message」からの TotalDuration_In_sec」として「、sum(duration/1000) の直前の追加して下さい。合計の前にカンマを忘れないで下さい。これはまた前のセクションでクエリに使用することができます。

リストで総メッセージ述べられる同じ原因で既知別名節と、このクエリまた使用することができます 数えて下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as Messages,
min(arrivaltime) as OldestMessageTime, vw_mailbox.bytesize from vw_message,
vw_mailbox where vw_mailbox.mailboxobjectid = vw_message.mailboxobjectid
group by description, vw_mailbox.bytesize order by messages desc
```

注: メッセージの総期間を得る順序で: 「vw_message」からの TotalDuration_In_sec」として「、sum(duration/1000) の直前の追加して下さい。合計の前にカンマを忘れないで下さい。これはまた前のセクションでクエリに使用することができます。

これらはこのクエリのいくつかのバリエーションです:

- 文字 A から始まるエイリアスのすべてのユーザをリストするために、エイリアス状態によって最初のクエリの「A%」のようなエイリアス直前にグループ、または説明状態によっておよびグループの直前の第 2 クエリの「A%」のような説明追加すれば。置換が正確な位置にある、またはクエリは失敗しますようにして下さい。
- 特定のユーザをリストするために (Anirudh のメールボックスのための数を、たとえばリストして下さい)、エイリアス状態、またはおよび説明によって最初のクエリの alias='Anirudh

直前にグループ = '説明状態によるグループの直前の第 2 クエリの Anirudh 追加すれば。置換が正確な位置にある、またはクエリは失敗しますようにして下さい。

ユーザ インボックスをリストすれば削除済みメッセージは以前のメッセージ平均利用間隔およびメールボックス サイズ/合計 期間と数えます

ユーザ インボックスのリストを得るためにこのコマンドを入力すれば削除済みメッセージは以前のメッセージの平均利用間隔およびメールボックス サイズと数えます (総期間なしで):

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as
TotalMessages, sum(case when deleted='0' then 1 else 0 end) as Inbox,
sum(case when deleted='1' then 1 else 0 end) as Deleted, min
(arrivaltime) as OldestMessageTime, vw_mailbox.bytesize from vw_message,
vw_mailbox, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where
vw_message.mailboxobjectid=vw_mailbox.mailboxobjectid and
vw_mailbox.mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox where
unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) group
by alias, vw_mailbox.bytesize order by TotalMessages desc
```

```
userid total inbox deleted oldestmessagetime byte
messages size
```

```
-----
Anirudh 3 3 0 2013-03-19 14:38:14.459 93319
Atest3 2 2 0 2013-01-18 05:49:45.355 59890
undeliverable 1 1 0 2012-07-05 01:10:19.961 317003
messagesmailbox
```

注: メッセージの総期間を得るため: 「vw_message」からの TotalDuration_In_sec」として「、sum(duration/1000) の直前の追加して下さい。合計の前にカンマを忘れないで下さい。これはまた前のセクションでクエリに使用することができます。

リストで総メッセージ述べられる同じ原因で既知別名節と、このクエリまた使用することができます 数えて下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as
TotalMessages, sum(case when deleted='0' then 1 else 0 end) as Inbox,
sum(case when deleted='1' then 1 else 0 end) as Deleted, min(arrivaltime)
as OldestMessageTime, vw_mailbox.bytesize from vw_message, vw_mailbox
where vw_mailbox.mailboxobjectid = vw_message.mailboxobjectid group by
description, vw_mailbox.bytesize order by TotalMessages desc
```

注: メッセージの総期間を得るため: 「vw_message」からの TotalDuration_In_sec」として「、sum(duration/1000) の直前の追加して下さい。合計の前にカンマを忘れないで下さい。これはまた前のセクションでクエリに使用することができます。

これらはこのクエリのいくつかのバリエーションです:

- 文字 A から始まるエイリアスのすべてのユーザをリストするために、エイリアス状態によって最初のクエリの「A%」のようなエイリアス直前にグループ、または説明状態によっておよびグループの直前の第 2 クエリの「A%」のような説明追加すれば。置換が正確な位置にある、またはクエリは失敗しますようにして下さい。
- 特定のユーザをリストするために (Anirudh のメールボックスのための数を、たとえばリストして下さい)、エイリアス状態、またはおよび説明によって最初のクエリの alias='Anirudh 直前にグループ = '説明状態によるグループの直前の第 2 クエリの Anirudh 追加すれば。置

換が正確な位置にある、またはクエリは失敗しますようにして下さい。

すべてのメールボックスのためのメッセージの総数をリストして下さい

結合されるメールボックスすべてのためのメッセージの総数を得るためにこのコマンドを入力して下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select count(*) as messages
from vw_message
```

```
messages
-----
6
```

送信のユーザ メールボックス サイズをリストし、制限を受け取って下さい

送信のユーザ メールボックス サイズを得、制限を受け取るためにこのコマンドを入力して下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitydirdb select alias as UserID,bytesize,send,receive,
warning from vw_user,unitymbxdb1:vw_mailbox where vw_user.objectid in (select
userobjectid from vw_usermailboxmap where
vw_usermailboxmap.mailboxid=unitymbxdb1:vw_mailbox.mailboxobjectid and
alias='Anirudh')
```

```
userid bytesize send receive warning
-----
Anirudh 93319 13000000 14745600 12000000
```

[リストで合計メッセージ](#)述べられる同じ原因で[既知別名節](#)と、このクエリまた使用することができません[数えて下さい](#):

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, bytesize,send,receive,
warning from vw_mailbox where description = 'Anirudh'
```

送信のすべてのユーザ メールボックス サイズをリストし、制限を受け取って下さい

送信のユーザ メールボックス サイズすべてを得、制限を受け取るためにこのコマンドを入力して下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitydirdb select alias as UserID,bytesize,send,receive,
warning from vw_user,unitymbxdb1:vw_mailbox where vw_user.objectid in (select
userobjectid from vw_usermailboxmap where
vw_usermailboxmap.mailboxid=unitymbxdb1:vw_mailbox.mailboxobjectid) order by
bytesize desc
```

```
userid bytesize send receive warning
-----
undeliverablemessagesmailbox 317003 13000000 14745600 12000000
Anirudh 93319 13000000 14745600 12000000
Atest3 59890 13000000 14745600 12000000
Solomon 0 13000000 14745600 12000000
UnityConnection 0 50000000 50000000 45000000
Suvir 0 13000000 14745600 12000000
dsas 0 13000000 14745600 12000000
```

```
test1 0 13000000 14745600 12000000
Atest2 0 13000000 14745600 12000000
operator 0 13000000 14745600 12000000
```

[リスト](#)で[合計メッセージ](#)述べられる同じ原因で[既知別名節](#)と、このクエリまた使用することができません[数えて下さい](#):

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, bytesize, send, receive,
warning from vw_mailbox order by bytesize desc
```

このクエリの変化として文字 A から始まるエイリアスのユーザすべてをリストするために、条件によって vw_usermailboxmap.mailboxid=unitymbxdb1:vw_mailbox.mailboxobjectid の直後の最初のクエリの「A%」のようなエイリアス前に) 順序追加すれば、状態によってどこで順序の直前の第 2 クエリの「A%」のような説明追加できます。これが正しい位置に追加される、またはクエリは失敗しますようにして下さい。

結合されるすべてのメールボックスの合計サイズをリストして下さい

結合されるすべてのメールボックスの合計サイズを得るためにこのコマンドを入力して下さい:

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select sum (bytesize) from vw_mailbox
```

```
(sum)
-----
2683210
```

```
admin:
```